

令和8年度 第3回 蒲小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年9月11日(金)9:10~11:15
- 2 開催場所 浜松市立蒲小学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、山内 敏幹、名倉 善郎、名波 久子、鈴木 厚子、
橋爪 洋子、早川 奈穂子、成瀬 浩一
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 野川 敏司（蒲協働センター所長）
- 6 学校支援コーディネーター 山本 恭子
- 7 学 校 内山 圭子（校長）、大宮 久人（教頭）、高邑 香奈子（教頭）、
梅村 友之（主幹教諭）、磯部 陽子（CS ディレクター）
- 8 教育委員会等 山本 美世絵（学校地域連携課）、中西 聖司（健康安全課）、木宮 敬信
（常葉大学教授）
- 9 傍 聴 者 なし
- 10 会議録作成者 CS ディレクター 磯部 陽子
- 11 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、成瀬 浩一委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

(1) 子供たちの安全を守るために ～木宮教授と共に～

- ・本日の防災訓練を参観して
- ・避難訓練を通して子供たちに育てたい力
- ・蒲地区地域防災について

13 会議記録

司会の高邑教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 子供たちの安全を守るために～木宮教授と共に～

議長の指示により、司会より防災訓練を参観した感想や子供たちに育てたい力は何かを求められ、委員からは以下の発言があった。

- ・自治体の防災訓練で起震車を体験したことがあるが、震度7は想像していたよりも揺れる。児童の机も教室の端から端まで動いてしまうぐらい揺れると思うので、頭に入れておいたほうが良い。（山内委員）
- ・6年生を参観したが、素早くヘルメットを被り、机の中に入っていた。先生が怪我をした児童の手当てをされていて、各クラスに防災袋があり、丁寧な対応に驚いた。（稲垣委員）
- ・各クラスにあるテレビは、固定してあるのか、停電した時は全校の放送はどうなるのか。（稲垣委員）

- ・自身が勤務している会社とは違い、実際に近い形で訓練していて、良かった。授業中の設定だったが、休み時間だった場合、人数のカウントはできるのだろうか。(成瀬委員)
- ・ヘルメットがない児童がいた。予備のヘルメットがあった方が良いのではないか。(橋爪委員)
- ・トランシーバーで人数確認と負傷者と両方行っていたが、2つのトランシーバーでそれぞれ別々に職員室へ報告したほうが効率的ではないか。一つの担架を行ったり来たりさせるのは、無理があるのではないか。(早川委員)
- ・3年生の訓練を参観したが、4組に負傷者が出ていてクラスに残されている児童の対応を1組の先生に頼んでいたが、かなりクラスが離れているので実際には無理があるのではないか。学年が違っていても、近隣のクラスとの連携が大切なのではないか。(厚子委員)
- ・ヘルメットの被り方ができていない。頭が机から出ていた。基本を学んだほうがいい。(名波委員)
- ・窓ガラスに飛散防止用のフィルムは貼ってあるのか。実際には窓のガラスが割れて窓側の席の児童が危ないので、必要ではないか。(名倉委員)

委員の発言を受けて（学校より）

- ・停電時の放送はできないので、拡声器で対応する予定だが、数も少なくまだ訓練はしていない。テレビは、固定してあるクラスもあるがテレビを動かしたいクラスは止めていない。
- ・休み時間に地震がくる設定の防災訓練も必要だと思う。自分のヘルメットがない場合は誰のでも良いから被るように指導しているが、自転車に乗るときに必要なだからと学校へ持参していない児童もいる。防災頭巾を用意したら良いのではないかと検討中。
- ・担架は各階に2つ、トランシーバーの性能が良くないので購入を検討したい。
- ・ヘルメットの被り方は、今一度徹底したい。机を対角線上に持つように指導している。
- ・教員も自分のクラスだけでなく、出入りの教科の授業時にも起こりうるので、教員のための訓練を行い、学年関係なく近隣のクラスとの連携を考えた方が良い。
- ・各クラスの窓ガラスや避難経路の窓ガラスには、飛散防止フィルムが貼ってあるが全てではない。

木宮教授より

- ・本来なら反射的に緊急地震速報が鳴ると反射的に机に入ると思うが、今いる場所や色々なパターンを想定して、自分で考えて一番良い行動をとれるようになると良い。
- ・ヘルメットを取りに行ったら机の下にもぐるまで20秒かかる。とっさの時は、防災頭巾の方が良いが、逃げる時には周りが見えにくいので逃げるのが遅くなり、覗き込まないと誰だか分からない。本当は両方あると良いが、収納の問題もある。
- ・ヘルメットの予備は、6年生に卒業時に置いていってもらおうと良い。
- ・意識のない児童が一人でも出ると、実際には近くにいる児童は過呼吸になり、連鎖的に具合が悪くなる児童が増える。負傷者から児童を離れた方が良い。
- ・同じ学年だけで他のクラスの児童を見るのは無理があるので、近隣のクラスと連携する必

要がある。どういう教室配置にするのかは検討したほうが良い。

- ・防災にはお金がかかり、お金があれば選択肢も広がる。安全をお金で買う時代。刺股は2本しか学校にはないが、1人を抑えるのに3本は必要で何人を取り押さえるかによる。
- ・ケガをした児童がいる時、他の先生を呼びにいけない時は、ホイッスルを活用すると良い。鳴らし方によって対応を決めておくが良い。
- ・子供たちは学校で防災訓練や色々な知識を得ているが、親に浸透しない。子供を通して親の防災意識を高めていき、親子で防災訓練にも行ってほしい。

(2) 蒲地区の防災について

議長の指示により、蒲地区の防災について山内委員から以下の説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・第3日曜日に毎月ポンプから水を放水し訓練をしていて、年に1回町民を集めた訓練を行っている。また、消火訓練も行ったばかりで、年々マンネリ化しているのが課題。実際に地震が起こったときに、活動が活かされるのか心配。近隣同士が声をかけて連携がとれると良い。
- ・起震車を呼んで体験したが、想像していたよりもすごい揺れなので、是非皆さんにも体験してほしい。

委員より

- ・起震車を各町で手配をして呼んだほうが良い。小学校のお便りや回覧板などでお知らせし、各地域で連携して体験してもらいたい。(稲垣委員)
- ・丸塚町では、子供を対象に消防訓練を行った。来た児童には花火を配ったので、沢山の児童が来てくれた。少しでも防災意識を高める為にも、先ずは来てほしい。(名波委員)

木宮教授より

- ・皆で活動している地域は、災害時には助け合える。顔も知らない人とは助け合えない。自治会も常に参加する人を増やすと良い。ちょっとした集まりを増やすと良い。
- ・子供110番の家も、児童は知らない家の人には助けを求めない。できれば、下校の時間に、外に出て挨拶をしてくれると皆知り合いになれる。知り合いになれると、助けてくれるし助けを求めやすい。是非知り合いを増やしてほしい。

1 4 その他報告事項等

司会から、次回の会議は、2027年1月26日(火)北校舎1階多目的ルームで授業参観を参観していただき後、開催する旨の報告があった。